甲辰歳旦六坊輯

辰歳旦

星志いしく人に

遊ひて福壽草子麿

禄を祈りけるく

東風かろう猫毛ぬ

春千鶯

素滄橋こえて沾凉

元旦

あつまむきそあ方よそ川日れ出　菊成
大福も色乃つゝさやきそ乃夫　甲 鶯 蘆龍
明て今橋立を日れそたゝそめ　紫泥
木葉をれゝ新年をうれゝ家れ春
蕗ふ踏れ相よ思て切日乃
きれ来乗よ飯くれこゝや宿れ去　甲 鶯 蘆爾
ゆの面乃そ人よかやきうゝ川日新　岡漁　山鳥
ことゝい新宅夫をむく結乃そ　沂流

万歳やうたふをもゝしら立　沾頑
よ踏つゝをき空よう明くけされ夫　女 不明
雪れ戸をゝ栗よ乃ゝく初日か那　月 花朴
梅よりも明ていをゝゝ福寿仲　玉泉
月乃恩や梅よりゝをかさ踊て　吐鳳

春興

どうゝてをちゝゝをつゝや新かを　仲迂
うくひをも一像きけらねり京　松雲
月はゝを江乃表をれり猫れ恋　宝春
芹つゝれ濁ゝて水れぬゝか那　菊成
園をよゝ月夜にをゝゝ梅れ恋　笑龍
春よ笛ふかをを夫乃踏　蘆示
うくひをれ表はゝ明に踏くゝを　紫泥
乃草や面れひと表乃ゝて加ゝ　岡漁
ゝれ枝乃梅はれいゝと月れ四み　山鳥
うゝをかをゝ玉鶯や移ちゝをに　沂流
皮をゝをかゝ表なの水ようめれ恋　沾頑
衝とれゝゝゝめ乃葉や洗れを衣　吐鳳
恋表をひれをゝ乃ゝん小松引　玉朴

うくひすや声ふるまて雨ふるち　也泉
ぬるまてふれい柳よ行ほろ月　不明

歳旦　又通

時を得てきりこを三箱れ初日哉
霧はれ四ふうやのの春　安車
よし初や拾得の書い何年を　長我
雪も解氣もとをつ唐藤辭　沾康
盛砂や雲れ根ふめの門かきや　路笙
袁そふと碎こうるやちまう　李九
唐藤酒を行や千とせれ辭心　花笙
ゆさかはよ袁はるまの波ふう　若奥
我樣乃我よふ忘けき三けれ乃　湖河
三十一れ去よむ　柳枝
こう詠よハ老ハれおまれ来やも　路長

角先れ歩や一羽ふけ初かを　柏夕
乞食をくひはまたり治代哉　溪斧

歳旦

天明て四海ふけかよ辰乃春　千鶯
喰つをやこれ海山乃をかをれ　吉御
こと乃ふに根乃ふ松乃初日哉　調布
まの富士よ一刷毛ふふふ嶽　流之
雲に沒連つをくき衣取り形　抱一
太箸を船よようとろをつ鳥　子遠
初空や鳥ハ鶏れ下ふ次　六恒
仕合を新よ未ふ玉れ去　六我
くつ京や湊ハ来ふたふ船　平篤
檜乃さをれふかふ海老　右琴
ゆをこれ書ふ連よ風　神女史猛

雪と福と人ハ廻やをけ烏　佳素
道業ハ浪や去れいち絶　肩　其隆
きり窒乃月ハたまうれし素ハ鶏　松巳
福茶や廻へ雀をそこまん　乙尼
右食住とそこ拝へてきけ乃麦　麻貫
波ア弓に初日ハさしてから綿　素牛
山里を　磨きをして明ハ春　午明

歳旦

連ハかれめけ〳〵くあつきや初霞　万里
元日や袴かちくそいてかし　立雀
笑水や烏帽ふてくめい杯をうそ　六遜
町ハてを満け二日ハ去きしき　雨柳
若ハ乃富ハ岡を変とこ拝　芦舩
雪霞ハ孫　磨つりてそ玉ハ麦　倉多

君ハ千代をうそを宿ハ屠蘇　下若
ふとをちをもよ老ハ乃ホ立ハ　鵬羽
一射ハ乃聚や雪ハかけて去　女掌芙
初東風や帆をヒ下て孫ハ乃　玉耕

春興

おしさハ四めをつむ牡を貴舟　我
吉ホ上を麦乃心ハ芽可南　安車
烏帽ふきく人を尺をうう梅ハ乃　為圭
ち富さハ豊千ハ虎を横かハ　沾床
脊戸内て水かきんや高茅つ　雲丸
初蕨　人ハ乃ハをき山ゆう那　給釜
とひこ四彩神乃場蕨や猫ハ悪　も釜
猫呼ハ鼻うそうぬ梅ア舟　柳支
子ハ日ま乃千とせハ松やこそきハん　多美

うめかゝの山路のうぐいすかな曲て
それ春は野よりとりて若草
摩ゆらくや古木は梅よ尾ぢとり

春興

きに夫は風美しき柳ゆ糸
こゝろ梅は拳の蕾か那
夫の日をりゆこはころや多の多
田や畑や梅の若はをミ布
つれの世ひと多の人来多
面白いとは竜ゆせよ若草つゝ
月をはさをひとしい梅ゆよて
梅ゆの中よ月はれうめ公し
船をおきはれ中の多よ梅はむ
ゆ是梅や待町の塚の多うく

溪斧　魚洲　子遠
和夕　露圓　流之
史猛　坑白　麻呂
　　浮尺　松巳
　　大漁　吟湖
　　吉御　素中
　　千鶯　雨柳
　　万里　沾賀
　　湖布　竹楊
　　抱一

みよおゝ似合ぬ人はいのほを
うぐひすや井に育てうめにはち
とれはをはてはたくん庭はう夫
五六寸地をゆくく蜂やうを自然
雪やうゆいきはをきい義よ梅匂ふ
今久郎宮とれをきい義よ梅匂ふ
たるとき公をかきそつ梅はむ
ま歩よりきふい風は柳か南
ゆをゝやつは松過て春をたを

夫興

ま多ゆをれをはくゆ猫は妻
搬治よ水のわうむをくい空茶ひ
歳暮

ゆとゝはれひとおを藝ふ友をか

子遠
流之
麻呂
松巳
吟湖
素中
雨柳
沾賀
竹楊

子智
仝

紫龍

ちまちていきそやとしれ梅柳　菊成
雪ぬきをこかくやそうりうそ山　篤泥
いきかひよ夫乃尺を糸浅哉　岡溪
三更ハ人ちけまてさまる除歌　莞示
松たて小舟も春をよつ河　不明
四く年れちこをもつ多や除歌嵐　吐風
於子日を入てこを語き師き代　沾頑
翌ハ入石昊拾ゑやとしれ言　沾水
よをこめて小原女ゆくや手乃られ　万貨
梢にもをれ線なるてきねくて　芭扇
多ちしれ悠くしさよ年れ暮　茶泉

歳暮

そ山ハ庭ゑせいしくそくきね　沾康
反占にそもゆ行ゑ遠れわ知かな　長我

夫ハ又ゆ根をこんとしれ冥　安車
ひとねハ冬ひをゆたてそうり梅　砂笙
馬れ脊ていをくや年れくて細　李丸
年ちいりり国ゑもきおりり蘇波　赤笙
猿乃ゑをかてほきや手木樵　柳文
たてゆ冬屋籠やゑ社除歌式　若奥
ちちかき帆毎にてそう東風乃形　砧長
るを除ひゆ年てまををしつめね　六遜
むひれゆ除おりとりや末社ち　知夕
いかりく年れ尾をる鬼す南　渓爺

歳暮

大とや行ゑことてよ酒乃砕ひ　潤布
紀組もちりそ糸行そうくれね　吉御
足ゑを知りそゆをまくきね　万里

一升程なねにちんとしれ冥　千鷺

神風の雪きと雲やかさね餅　湖之

くれまりこれをてつるみ幣　抱一

大判ハ裸て出る師走かな　子遠

出唄て礼をかくしとしのくれ　立雀

こゑなかりし歳の多例門海くを　浮尺

物忘しなかしおしまわちまき　大漢

古足袋のきもきれにまくれね　玩台

あつかしや老り去をまゆそろ　吟濤

入船に結ふとしの四日市　雨柳

やてとりにうちたつまし年忘　沾賀

春いまへと子の歳をとうれしまれ　素中

くなまのまゝ川先達やとし男　午明

年の瀬をおしはるき鳥志向香　松巴

足せこゑ立きまてゝ保取の琴　麻貫

玉手もかくしやもし年の坂　倉鳥

引れきもはなきさ交るや除取穴　下若

年の尾に先きハおし柚ミかん　竹樓

としのよや脱う羅ふる柳子取　玉耕

計互によしや手の墨山塊　沾々

歳暮

有明やうしの瀬端にたつかゞ　東窩

お通や瀬草御門の兎市　宝馬

又年をほに重ふれしたる暦かな　標雲

はまれのさをを鎌刈くらたちね　冬映

田舎やかにまちうる氷葉柏々な　五陵

ねくしをまてやまゝ川茶の庵　和推

石船の棹をとかゝまく師走川　陸馬

まこゆ形なる夏さくれどそこ陀袋　万布

歳暮

雪かゝる壹人買人やかゝる松　盛貝

餅搗や神も佛もひとむらし　不言

時雨ちゝぬ松を笑しく夫むらし　紫風

かしむ白くまれれるやを徒うを　石線

たつや松かゝを月日はさかりこを　沾山

蓬莱や蕪ゝ文れとしひとよ　来室

大文字はいちしに来るまれ菅　沾宿

石川や沙弥ゝ為ゝ為ゝ為ゝ　佛外

大尾

雷を形ゝ為ゝ為ゝ為ゝ　子雪

夏ゝ川や世ハ　今

注連菜ゝ為ゝ為ゝ為ゝ